森の芸術祭 晴れの国・岡山
ゲッコーパレード 家を渉る劇 vol.6 野外演劇ツアー

バイオマス・マクベス

『バイオマス・マクベス』第 0 部 オンライン映像 ▶

野外演劇ツアーの開催に先立ち、森とバイオマス発電に関する映像作品を公開しています。ぜひご覧ください。（撮影・編集：瀬尾憲司）

ぜひ公演のご感想を

こちらのフォームへ
お送りください

ゲッコーパレード出張公演
家を渉る劇 vol.6『バイオマス・マクベス』

日程：2024 年 11 月 17 日（日）
上演時間：約 100 分
会場：真庭市内のバイオマス関連施設

原作：W. シェイクスピア『マクベス』
訳　：福田恆存
演出：黒田瑞仁
出演：崎田ゆかり
　　河原舞
　　丸山雄也（平泳ぎ本店）
　　いまい彩乃（タテヨコ企画）
セノグラフィ：渡辺瑞帆（Scenograff）
衣装：YUMIKA MORI

演劇：ゲッコーパレード
映像：瀬尾憲司
冊子編集：春口滉平（山をおりる）
グラフィック：西村祐一（Rimishuna）
上演補助：林純平
企画補助：杉山祐太郎（Scenograff）

企画協力：株式会社ステラーグリーン
学術協力：菊地暁（京都大学人文科学研究所）、惠谷浩子（奈良文化財研究所）

主催：「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会
企画：家を渉る劇／本橋仁、黒田瑞仁、渡辺瑞帆

シェイクスピアの名作『マクベス』は、将軍マクベスが魔女の予言にそそのかされ王を殺し、暴君に成り果てる物語です。ついには「バーナムの森が動かない限りマクベスは安泰である」という魔女の予言にも裏切られ、森を従えた復讐者マクダフに討たれます。

今回の上演は、その物語を木材を巡るエコロジーの観点から再解釈したツアー型の野外演劇です。皆さんは演者と共に、木材集積場、バイオマス発電所を巡りながら、この悲劇に立ち会うことになります。マクベスの野心と破滅、それに魔女たちの声は、人間の営みと自然との折り合いについて、考えるきっかけを私たちに与えてくれます。

あたらしい環境哲学も生まれる中で、現代の環境問題は、人間中心主義を脱し、人間がどのように他の生き物と共生できるか、そのあり方を見直す段階に来ています。バイオマス発電は、かつて里山が果たしていたように「自然と人間の間をつなぐ」仕組みともいえます。しかし、特に都市生活では、発電と自然の距離が遠く感じられ、電気がどこから来るのか実感することが難しいのです。
物語はいつも何かと何かのはざまで起きています。今日はこの「自然と人間をつなぐ場所」で展開するマクベスのお話を追いかけながら、自分の居場所を探してみてください。必ずしも頭で考える必要はありません。事態の把握に躍起にならず、お付き合いいただけますと幸いです。

トークイベント：企画のなかで考えたこと

野外演劇ツアーの当日夜に、民俗学者の菊地暁さんを招き、トークイベントを実施します。今回の『バイオマス・マクベス』がどのように作品化していったか。一緒に企画に関わってくださった菊地さんを招きトークを実施します。

日　程：2024 年 11 月 17 日（日）
時　間：19:00-20:30
料　金：無料
予　約：不要
会　場：西蔵（〒717-0013 岡山県真庭市勝山１１６）
ゲスト：菊地暁（京都大学人文科学研究所 助教、本公演学術協力者）

ずっと閉じない自然と、その形をなす建築
家を渉る劇　第６回公演を迎えて

中国地方の低い山並みと、ひろく平たい平地。その昔話のような風景は、空を感じさせる一方で、広い空が地面に向かって迫ってくる気もする。この低い山を漂う 空気の塊を建築として捉えられないだろうか？そう思えたのも、真庭バイオマス集積基地で、演劇チームが稽古に入ったがゆえだった。バイオマス発電所で マクベス を上演する。当初の目的は、マクベスの物語を、バイオマス発電のストーリーを重ね合わせて、都市と森とのイメージを繋げる。物語の作り方は、そこからスタートしたかもしれないが、建築を出自とする、家を渉る劇の企画者として、演劇を通して建築を立ち上げたい、あるいは感じたいと思うようになる。稽古を重ねるうちに、私たちが知らないビルディングタイプが立ち現れるようになった。

集積基地は、空気の塊がチップの山に支えられながら、また形を変えられている。集積基地が量塊（マッス）の建築であったなら、バイオマス発電所は方向（ベクトル）の束としての建築かもしれない。燃やされたチップの熱で生み出された水蒸気は、一気に管を駆け巡ってタービンを回す。役目を終えた水蒸気は、今度は冷却されて水に戻されて、再び管でタンクに戻される。そしてまた蒸気に変えられると、態を変えながら、工場を駆け巡る。線だけで構成された建築。人のために作られた建築が、しっかりとした閉じた空間を持っているのに対して、自然を扱い、また自然の建築はオープンエンドな形態をもっている。形を変え、組織（ティッシュ）を組み替えながらも、山から生まれた木、それから生まれたチップの山から、さらに水から蒸気、そして電気の流れは、自然のなかに組み込まれた、やっぱりぜんぶが自然。

今回のバイオマス マクベスの稽古を通して建築が立ち上がる。第６回公演をむかえた「家を渉る劇」のシリーズは、あらたな建築のビルディングタイプを発見する、あらたな局面に立ち会うことになった。（家を渉る劇／本橋仁）